

島根県立隠岐高等学校 R7 プロジェクトチーム紹介（本交流会に参加する高校生チーム）

○外来種駆除チーム

セイタカアワダチソウチームは、隠岐の固有種を守るために、それらを脅かす外来種の一つであるセイタカアワダチソウについて探究している。セイタカアワダチソウは繁殖力が非常に高く、一株で4~5万粒もの種子をつくり、横に長く伸びる地下茎でも増殖する。また、根からは周囲の植物の成長を妨げる物質を分泌するため、隠岐固有の植物がこれらの性質によって圧迫されているのが現状である。

こうした問題を踏まえ、隠岐におけるセイタカアワダチソウの分布状況や駆除方法、そして活用法を地域住民に伝えることができれば、個体数の減少につながるのではないかと考えた。現在、分布図を作成するために北海道地図株式会社と協働してプロジェクトを進めている。



右：セイタカアワダチソウの駆除活動の様子。

実際に自分たちでまずは駆除活動を実施することで、そこでの気づきを活動に反映させていく。

左：セイタカアワダチソウの活用方法を探究中の様子。

インターネット上での情報を参考に、ジェノベーゼソースを試作。他にもブレンド茶など、ただ駆除するだけではなく、価値を生み出していく。

○特産品活用チーム

藻塩チームは、島の特産品である「藻塩」で、「隠岐の島をジャックする」という目的で活動している。隠岐の藻塩はあらめを使っているため、色が黒く他のところで作られている藻塩よりも旨み成分が多く含まれている。そのため味が濃く、少量で良いので減塩効果もある。しかし、現状としては隠岐島内ですらあまり使われていないという現状があり、まずは藻塩を使ったご飯のおともとして藻塩ふりかけの制作を行い、隠岐島内での認知度向上や活用法の拡大に取り組んでいる。現在、パッケージを読み取って出てくる藻塩のPR動画を北海道地図株式会社に協力いただきながら作成している。



右：隠岐の島町観光協会でのフィールドワークの様子。

自分たち自身も聞いたことがあるレベルでしかなかった「藻塩」について初めて理解を深める。



左：島内で「藻塩」の販売に携わっている方をご紹介いただき、

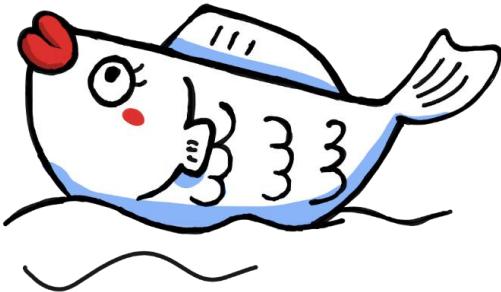
インタビュー調査を実施。

「藻塩」の製造から販売、活用について意見交換を行う。

○海洋観光チーム

嵩洋丸チームは、遊漁船の利用客を現在より増加させるために探究活動を行っている。現在、隠岐の島の観光面での課題として挙げられるのが、遊漁船、観光船の利用が一部の企業に傾いていることである。これを解決するために、比較的宣伝活動を行っていない遊漁船嵩洋丸の船長に協力をしていたいている。

活動としてはパンフレット、ポスター、動画の作成に取り組んでいる。動画に関しては、アバターなどの技術を利用するため、北海道地図株式会社に協力していただき、作成を進めている。



右：遊漁船嵩洋丸の写真。

近海を中心に釣りを楽しみながら、
海から見た特殊な地形や岩石などの解説が楽しめる

左：生徒が考案したイメージキャラクター
各種広報に使用していきたい。